

「おかえりなさい」と声をかけ、一人一人の子どもたちに目を配る

学童保育所がある

私は学童保育所を利用して3児の母親です。今年の春に卒所した中1の長男が、小学校入学と同時に利用し始め、下の二人も毎日楽しく利用しています。今まで仕事を続けてこられたのも、学童保育所に育児の一部を助けてもらってきたからだと思います。今回のレポートでは、学童保育所って何？どんなところ？どんな活動をしているの？など、保育所の指導員さんに協力をいただきながら、その魅力をお伝えしたいと思います。そして、未就学児を持つ保護者のかたがたの不安解消、さらに地域の皆さんとの交流のきっかけとなればありがたいです。

学童保育所とは

共働きやひとり親家庭の親にとって、自分が帰宅するまでの子どもの居場所はとても気がかりなもの。学童保育所は、そんな親を持つ小学生の子どもの預かってくれる施設です。町内には、父母会・NPO法人・社会福祉法人が運営している3つの学童保育所があります。いずれも放課後の児童の、安心して安全な居場所を必要とする保護者の要望で設立しました。

学童保育所の魅力

遅くまで預ける必要がある保護者にとってはおやつが出たり、宿題の声掛けをしてくれたりするなど、指導員さんが寄り添ってくれることも安心材料の一つです。ゲーム機とにらめっこしている子どもたちも多い中、放課後の時間だけでも元気に外で遊び、昔からの遊びを通して健全に楽しく過ごせるのは教育上、保護者にとってありがたいことです。異年齢の集団の中で、家では末っ子や一人っ子でも下級生の面倒をみる経験ができた、異なる学年の子ども同士で友達になれたりするのも魅力です。そして、それを見守り、トラブルになったときはきちんと向き合ってくれる指導員さんの下、子どもたちは大きく成長していきます。

「ただいま」の場所がもう一つ「おかえり」の声を全世代で

核家族が進み、共働き家庭が増加する現在、子どもを安心して預けられる場所、そして何より子どもが楽しく「ただいま」と帰って来られるもう一つの家庭となってくれる学童保育所は、働く保護者たちにとって必要不可欠なものです。また、超高齢社会が進む中、これからは元気な高齢者の活躍の場としての学童保育所であってもよいかと思えます。先輩方の身に付けた特技や趣味を子どもたちに伝えていただくことで、さらなる異年齢交流ができ、思いやりの心を育めるのではないかと考えています。

子育て環境に関する問題解決に向けた全国的な取り組みの中で、現在では町の「子ども子育て支援事業」の一つとして学童保育が位置づけられ、町もその整備や支援計画に大きく関わるようになりました。例えば、平成27年度からは幼稚園・保育園同様に「多子軽減補助」、つまり学童保育所に通う第2子、第3子以降の保育料が軽減されることになり、支援が拡充されました。

また、父母会などでの保護者同士の交流も親たちを成長させてくれます。



育児や子育てに関する相談やお問い合わせは
役場子ども支援課 ☎47-5014

ただいま



くらかけ広場 10-11ページ

子どもたちの放課後の生活を守り、より豊かに

ポランの広場 12-13ページ

「もう一つの家」がここにのびのび過ごせる環境

いちばんぼし 14-15ページ

豊かな感性とやさしさを子どもの心を育てる

Yoneyama Minako



街角特派員
米山 美奈子
(大谷端宿赤東・31区)

Profile ● よねやま・みなこ
館林市出身。邑楽町民歴12年。自称「ママ鉄」で、好きな電車は「新幹線500系」。中学生から親しんだ卓球に子どもを誘導し、卓球3兄弟に育てあげるべく、日々送り迎えに奔走し、一緒に夢を追いかけている。





Profile

手島 佐和子さん (館林市)

足利市内で幼稚園教諭を6年間務めたあと、くらかけ広場の指導員として15年。これまで38人の卒所生を見送ってきた。趣味は山登り。自身も3人の子を持つ母親として子育てに奮闘中。

指導員のつぶやき

個性たっぷりの子どもたちの毎日には、笑いあり、涙あり、たたかいあります。例え、たたかって涙してもその後必ず何かと一緒に学べと思っています。だから、子どもの主体性を重視し、まずは見て見ぬふり。その背中を見守ります。すると、子どもたちなりの伝え方や行動からその日の気分や心の中が見えてきたりします。そして、場合によっては指導員が間に入ってあげることで解決したり、子ども同士のつながりができたりします。もちろん、ガツーンと叱ることもあります。毎日接しているからこそできること。本当の母親にはなれないけれど、子どもたちへの愛情は忘れていません。

お祭りみたいににぎやかな毎日で大変なことも多いけれど、子どもたちの笑いや昨日より成長した表情や行動に感心することも多いし、子どもたちと過ごしていると心が温かくなるような気がしています。だから、頑張れます。

私が子どもたちと過ごす中で大切にしていることは「ありがとう」の気持ちを伝えること。これは、どんなに小さなことでも誰かのために何かをしてくれた姿には「すてきだよ」を伝えたいと思うからです。

指導員を15年間続けてきたことのご褒美もあるんです。それは、卒所したOBたちが進学や就職の報告に来てくれたり、保育所のお手伝いに来てくれたりすること。7~20歳以上の学童っ子が一緒に遊んでいる姿は最高です。いつでも「おかえり〜」が言えるようにくらかけ広場を開けて待ちたいと思っています。



ある日の過ごし方

午後

- 3:00 — 「ただいま！」と帰ってくる低学年。遊びたいけど宿題を頑張っちゃおう。終わったら遊びに突入！！
- 4:00 — 高学年の子どもが帰ってくる時間。宿題宿題！
- 4:15 — **おやつタイム。**
今日は低学年が作ったスノーボールクッキー。
- 4:30 — 「全員参加〜！」という6年生のリードで**全員ドッジボール**。1年生でもお兄さんの速いボールに立ち向かいます。楽しくて楽しくて、お迎えが来てもなかなか帰らない子も。
- 5:00 — 続けてサッカーをする高学年。室内に戻った子はカード遊びやボードゲーム、卓球など**それぞれに**。
- 5:30 — お迎えが来た子から順に「さようなら」。
- 7:00 — 最後の子どものお迎えがお迎えに来て**保育終了**。



くらかけ広場2大行事

◆写真提供◆
くらかけ広場

夏のキャンプ

アウトドアが得意分野だというお父さんたち力を借りて、毎年いろいろな場所に行きます。週末に行くので保護者の参加希望もあり、にぎやかな一晩を過ごします。大人のお楽しみ会もあります。

食事は、飯ごう炊飯をしたり、パンにソーセージを挟んで牛乳の箱に入れて焼く「カーシンドック」を作ったりします。レクリエーションでは、花火やそば打ち体験をした年もあります。今年は銀山平キャンプ場 栃木県日光市で川飛び込みをしました。子どもたちが、たくましく成長するイベントです。

くらはがファミリーのイベント

スキーやスノーボードをしに湯沢方面へ行きます。未経験の子どもは、スクールに入ったり、得意な保護者が教えてくれたりします。子どもは感覚をつかむのが早く、時間がかからず滑れるようになります。民宿を貸し切りにするから大きな家族旅行みたい。子どもも大人も一緒になって雪山を満喫する2日間。子どもたちが大好きなイベントです。



子どもたちの放課後の生活を守り、より豊かに

NPO法人学童保育所
くらかけ広場

文 ◆ 手島 佐和子さん

子どもの生活を守ることが、保護者が安心して働けること

くらかけ広場は平成5年3月、「子どもたちの放課後の生活の場を作りたい」という保護者たちの思いが集まって、父母会運営という民設民営の形でスタートしました。5回の引っ越しを経て、平成25年3月にNPO法人となり、現在は長柄小学校の校庭横の敷地で運営しています。振り返れば、もう20年以上の歴史があります。

今日に至るまでには、何よりも子どもたちを預けている保護者のかたの知恵・力・地域とのつながりといった温かい協力がありました。特に、5回の引っ越しに伴う施設面の困難を乗り越えてきました。かわいい我が子のため、みんなが笑顔になれるようにと注いでもらったパワーは何物にも代えられない、くらかけ広場の源であり、伝説となっています。

放課後の生活の場である学童保育所では、伸び伸びと遊んでもらうことが一番です。庭では水遊びや虫探し、スコップでの穴掘りができるし、何といっても隣接する長柄小学校の校庭をお借りできます。ここでは、サッカーやドッジボール、テニス、キックベース、鬼ごっこなど、遊びの幅は無限大。広い校庭で思い切り体を動かすことができます。室内ではボードゲームや手芸・工作などのほか、自慢したいのは卓球台。ある保護者から譲っていただいた卓球台は大人気で、卓球大会が行われるほど。日々、練習遊びに余念がありません。

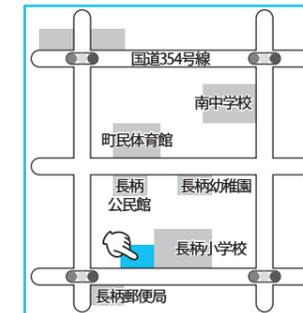


子どもの生活を守るということは、保護者が安心して働けるということ。だから、

子育てについて保護者と一緒に考え、楽しいことも大変なことも共感できる施設であることを目指しています。



〒370-0615
篠塚1277-1
☎・FAX 88-9741





Profile
中村 昌嗣さん (前原・4区)

前職はダンススクールのインストラクター。学童保育所の指導員として4年目を迎えた。広い敷地の草刈りがうれしい悩み。休日は地元の仲間とバスケットボールやフットサルをして過ごす。

指導員のつぶやき

私は、イベントをととても大事に、なおかつ派手にやりたいと思っていますので夏休みやハロウィーン、クリスマスなどはかなり力を入れています。自分も一緒に楽しみたいからです。

学童保育所は「放課後を過ごす場所」ですが、学校のような先生と児童の関係ではなく「家族に近い存在になれるように」をモットーに日々過ごしています。一緒にふざけ合い、ときには叱り、そして感動を共有する。大人ながら少年の心を持続させてできる最高の仕事だと思っています。

一方で、毎日ある宿題だけは学校の先生気取りで教えています。だけど、私は勉強のやり方や方法を教えるのではなく、勉強を楽しく思えて、自分からいろいろなことを知りたがるような探究心を育てていきたいと思っています。いろいろなものに興味を持ち、その中で何か一つ自分が熱中できるものを見つけて、その道のエキスパートになってもらいたいです。そして、その何か学童保育所で見つかればいいな、と思っています。

ポランの広場の子どもたちはみんな元気いっぱい、私自身が元気をもらっています。いつか小学生時代を振り返るとき、一番楽しかった思い出が「学童保育所」だったらいいな、と毎日子どもたちと全力で向き合っています。そして将来、お酒を交えて学童保育所の思い出話を語り合うのが今の一番の夢です。

うるさくて、子どもとそんなに変わらない思考を持つ指導員ですが、今いる子どもたちには最高の時間をプレゼントしてあげられるよう努力していきたいと思っています。



ある日の過ごし方

午後

- 3:00 — 低学年が「ただいま！」
指導員が「おかえり！」
- 3:15 — 宿題タイム。
終わったら自由時間！
- 4:00 — 高学年が「ただいま！」
おやつ時間まで宿題をがんばれ！
- 4:30 — おやつタイム。
食器を洗い終わるまでがおやつだよ。
- 4:50 — 外に出て元気に遊ぼう！
「かくれんぼがいい」「缶けりしようよ」みんなで相談。
- 5:20 — 今日は全員でかくれんぼ。
広くて自然がたくさんある庭だから隠れる場所もたくさんあるぞ。
- 7:00 — 全員のお迎えが来て、保育が終了。



「もう一つの家」がここに
のびのび過ごせる環境

学童保育所

ポランの広場

文 ◆ 中村 昌嗣さん

自然豊かなポランの広場で 輝かしい思い出の1ページを

ポランの広場は、町の市街地の中にありながら、自然に囲まれた施設です。裏には竹林があり、敷地内にもたくさんの木や花が生えています。夏にはクワガタやカブトムシが捕れて、子どもたちは大喜びしています。その木を利用した遊具を作り、ブランコや木登りなど体をダイナミックに使った遊びができます。庭が広いのも特徴で、サッカーやテニス、バドミントンなどのスポーツにも励んでいます。屋内では勉強したり、工作をしたりして過ごします。

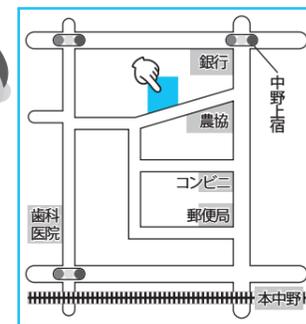
長期休みの時には、お昼作りを手伝ってもらい、他にも家や学校では出来ない体験をさせるように心掛けています。手作りのプールは夏に欠かせないアイテム。天気さえよければ毎日水遊びをします。

目も心も行き届く保育は少人数ならではの。2人の指導員が連携を取りながら、子どもたちが育つ環境を作っています。

放課後は心を育む大切な時間です。一人一人が主役になって、お互いの違いを楽しみながら一緒に成長していける場所を目指しています。異年齢との集団生活によって、人との接し方やルールを守ることを自然に身に付け、楽しい思い出をたくさん作ってほしいと思っています。ここで過ごす時間が、子どもたちにとって輝かしい思い出の1ページになるように、ポランの広場は全力で子どもたちと関わっています。



〒370-0603
中野4602
☎・FAX 89-1535



半田 いぶきさん (中野小学校6年)

小さい子の面倒見るのは大変だけど楽しい。おやつに出るフレンチトーストと冷やし中華が好きです。ポランの広場ではおうち祭りに模擬店を出店します。そこで自分たちの作った食べ物や手作りアクセサリーなどが売れたときはうれしいです。



金子 陽縁さん (高島小学校3年)

1年生の時から通っています。みんなと外で遊ぶのが楽しい。指導員の中ちゃんは優しく大好き。そんな中ちゃんが作ってくれるおやつ「中チャーハン」はもっと好き。空の高いところからダイビングをして、ポランの広場に着地してみたいです。

ポランの広場2大行事

◆写真提供◆
ポランの広場

夏はキャンプ

みんなが楽しみにしている夏休み。毎年必ず行くのが埼玉県長瀨町のキャンプ村。子どもたちは自分でテントを立てたり、川を船で下るライン下りを体験したりします。夕食はもちろん自炊。全員でカレーを作り、親子一緒に舌鼓を打ちます。キャンプファイア、花火、ダンスなどを踊って最高の夏の思い出を作ります。

冬のレジャーはやっぱり雪山、スキー旅行

年が明けて最初の一大行事がスキー旅行です。場所は、新潟県や栃木県などその年によって変わりますが、前回は栃木県日光市に行きました。スキーが初めての子どもにはスキー場のインストラクターやスキーが上手なお父さんが教えてくれるので安心です。うまい子はどんな上級者コースにも果敢に挑み、見事に技術を身に付けて滑れるようになっていきます。そのチャレンジ精神には驚かされます。見習いたいです。ひよっとすると……いや、間違いなく大人よりもうまいかも。





Profile
対比地 直人さん (太田市)

専門学校生のとき、実習で訪ねた風の子保育園の自然にこだわる保育に魅せられて保育士に。いちばんぼしの指導員になって4年目。趣味はバス釣りとブラジリアン柔術。愛称は「なおにい」。

指導員のつぶやき

子どもたちは、良いことも悪いことも含めて、その日の出来事を背負って帰ってきます。そのため、私たち指導員は帰ってきたときの表情に気を配っています。「わーっ」としゃべる子、宿題をし始める子、ゴロンと横になってエネルギーを蓄える子、ランドセルを置くとすぐに遊び始める子、さまざまな姿を見せてくれます。集団で何かをする日以外は、子どものペースで放課後の生活を始められるのが学童保育所の良いところの一つでしょう。

遊びは、好きなことをして遊べる自由遊びの日と、ルール遊びをする集団遊びの日とでバランスを考えて行っています。学童保育所は生活をする場なので、おやつ準備、片付け、宿題などもあります。生活にメリハリがつくように配慮しています。

毎日の繰り返しの中で、子どもたちは子どもの集団の中で生活することの大切さを身に付けていっているようです。ケンカもいっぱいありますし、時に難しい人間関係で悩むこともあります。その中からお互いによりよい関係作りができるように、指導員が時間をかけてフォローに入ります。

私たち指導員が心掛けているのは、大人の見守りの中で、子どもたちがお互いに成長していけることを大切に、子どもたちがそれぞれ自分らしく生活していける場を創ること。これからも2人の女性指導員と一緒に子どもたちに寄り添い、力を合わせて頑張ります。



四季折々の季節感を感じながらの活動を通して、伸び伸びと遊んでいます。これからも季節感あふれる行事を大切にしていきます。

スペシャルプログラム

◆写真提供◆
いちばんぼし



7月・前橋七夕まつりへお出かけ



8月・キャンプでカレー作り



8月・ログハウスで夕飯



10月・ハロウィン



12月・クリスマスパーティー



12月～翌3月・アイススケート



ある日の過ごし方

午後

- 3:00 — **ランドセルを背負ったまま**、いちばんぼしに帰宅。中野小学校以外は送迎を行っています。学校、曜日、学年により下校時間はさまざまです。帰ってきたら、**まず宿題!** 分からないところは指導員や友達が教えてくれます。
- 4:20 — 当番さんの準備でおやつ時間。メニューは、お好み焼き、ハンバーガー、お稲荷さんなど**手作りのおやつ**。
- 4:50 — **天気がよい日は外で遊ぶのが約束!** ルールをいろいろ変えながらドッジボール、サッカー、なんでもバスケット、一輪車、バドミントン、野球など、次から次へと**集団遊びを展開**。
- 6:30 — 思い切り遊んで楽しい時間も**お迎えがきたら「さようなら」**。



平田 晃聖さん (中野小学校3年)

学校が終わると、友達と一緒にいちばんぼしへ帰ってきます。おやつはポテトが一番好きかな。ドッジボールが得意で「やろう!」となるとうれしくなります。夏キャンプの水遊びで、光っている石を見つけたことが思い出です。今年も楽しみです。



齋藤 ひよりさん (中野東小学校1年)

いちばんぼしには、一緒に遊んでくれるお兄さんやお姉さんがいるので好きです。遊ぶものもたくさんあって楽しいです。中でも折り紙が楽しいです。いろいろな折り方をあずちゃん(女性指導員)が教えてくれます。これからも毎日来たいです。

豊かな感性とやさしさを
子どもの心を育てる

社会福祉法人ころみの会
学童保育所

いちばんぼし

文 ◆ 対比地 直人さん

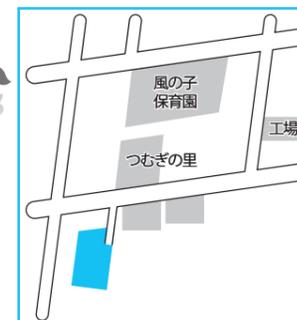
安心して帰れる場所 遊びのルールもみんなで確認

今の子どもたちは社会環境の影響から、子どもたちだけでの集団遊びを行う力が弱く、人間関係も希薄になってきています。また、放課後や学校の長期休みでも、子どもたちだけで遊びを行う場面は少なくなってきています。

いちばんぼしでは、町内の小学校に通う1~6年生までの児童を対象に、ドッジボールやしっぽとりなどの集団遊びをルールを確認しながら取り入れ、楽しい遊びの中で人間関係を築ける、また集団活動を行える力の習得を目指しています。さらに、自宅ではなかなか経験できないような活動を行うことで、子ども自身が考え、選択し、行動できる力を身に付けられるように支援することを目的としています。

学校が終わったら、いちばんぼしに「ただいま!」と安心して帰宅し、1~6年生までの子どもたちが協力し合いながら放課後の時間を過ごします。みんなでおやつを食べ、宿題をし、晴れた日には外でドッジボールや鬼ごっこをして思い切り遊び、雨の日には上毛かるたやトランプ、風船バレーをして過ごします。そこには学校とも家庭とも違う空間があって、上級生が下級生に宿題を教えたり、みんなで手分けをして掃除をしたりもします。

長期休みには、車や電車、バスを利用して買い物や外出に出かけるほか、プールやキャンプ、スケートなど季節に応じた活動を取り入れています。



〒370-0603
中野2226-2
☎080-2675-0053